

関西電力株式会社社長 森 詳介 様

新潟県中越沖地震で原発の耐震設計を上回る揺れ 関西電力へ 緊急の申し入れ

若狭連帯行動ネットワーク

マグニチュード 6.8 の新潟県中越沖地震が起こりました。余震域が東京電力柏崎刈羽原発の直下に広がっていることが、気象庁などによる解析でわかりました。東電広報部も今回の地震で震源断層が柏崎刈羽原発の直下に広がっていることを認めています。まさに、「原発直下地震」が現実には起きたのです。しかも、耐震設計で想定してきたマグニチュード 6.5 を超える規模でした。東電のホームページでは「活断層の上には原発は立てていません」と宣伝していますが、海底活断層の断層面が原発直下まで広がっており、真っ赤な嘘でした。耐震設計審査指針は昨年9月に改定されましたが、その案を検討する耐震指針検討分科会では、「M7.3以下の地震は国内のどこでも起こりうるから、この規模の地震を直下に想定して原発の耐震性を見直さないといけない」という地震学者の意見が封じ込められました。今回の地震を教訓として、新耐震指針そのものの見直しが急務です。

3月の能登半島地震では強い地震動が志賀1・2号を襲い、その解放基盤表面での応答スペクトルが最強地震および限界地震による設計用地震動S1およびS2を部分的に超えました。東日本でのプレート間地震による女川原発等での重大事故の危険、巨大な東海・東南海・南海地震による浜岡原発等での重大事故の危険に加え、西日本でも内陸地殻内地震による原発重大事故の危険が差し迫っているのではないかと危惧されます。北陸電力は海底断層と陸域断層の連動による能登半島地震を過小評価していました。いずれも耐震設計の想定を超える地震動が観測されています。いつ次の「想定外の地震」が起こるのかわかりません。

貴社においても、美浜原発と野坂断層帯や三方断層帯との関連、大飯・高浜原発と熊川断層や小浜湾内海底断層・大島半島中部断層との関連などでも同様に過小評価しているのではないかと私たちは危惧しています。

私たちは貴社に対して 以下のことを強く求めます。

大飯・高浜・美浜の全原発の運転停止を求めます！

M7.3の直下地震に耐えられない原発は閉鎖して下さい！

原子力安全委員会に新耐震指針を即刻見直すように働きかけて下さい！

貴社の原発の耐震性について公開討論会を開いて下さい。

以上